

ゆたんぽの事故

事故の概要

【事例①】ゆたんぽを使用中、低温やけどを負った。

【事例②】電子レンジ加熱式のゆたんぽを加熱中、膨らんできたために慌てて電子レンジの扉を開けたら、ゆたんぽが破裂して内容物が飛び散って顔面にやけどを負った。

【NITEの再現実験】



過熱されて膨張した
ゆたんぽ

事故の原因

【事例①】長時間、ゆたんぽに足首が触れたまま寝ていたため、低温やけどを負ったものです。

【事例②】禁止されているオート加熱機能を使い、使ってしまったため、規定時間を

超えて過熱状態になり、内圧が高まって破損し、内容物が飛散してやけどを負ったものです。



ゆたんぽで睡眠中に生じた低温やけど。患者は糖尿病で末梢神経知覚障害がありました。(出展：製品安全点検日セミナー)



低温やけど

比較的低い温度(40~50℃)でも長時間にわたって皮膚の同じところに触れていると、筋肉などの細胞が壊死するために「低温やけど」を負うことがあります。

また、ゆたんぽや電気カーペット等の暖房器具だけではなく、パソコンや携帯電話を使用中に眠ってしまう等、長く触れている間に低温やけどを負った事例もあります。

やけどは、皮膚の表層のみでおこります。「低温やけど」は、皮膚の変化が少なく痛みも弱いですが、実際は皮膚の深い部分にやけどをおこして皮下組織が壊れ、植皮手術が必要になることがあります。



事故防止のために

◆就寝前にふとんの中に入れ、温まったら出してください。長時間触れていると低温やけどを負うおそれがあります。

◆電子レンジ加熱式は、規定のレンジ出力や加熱時間を守ってください。

◆容器の破損に注意してください。

◆金属製を温めるときは、必ず口金を外してください。

◆ゴム製に湯を入れるときは、取扱説明書を確認し、湯の温度が耐熱温度以下であることを確認してください。

